



平成27年 9月15日 NO・64

〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】



「どうしました。落ち着いてね」  
藤枝先生の説得は、成功したのでしょうか？



サングラスにマスク、S先生迫力満点の演技

十四日(月)の六校時目に、不審者が学校に侵入したことを想定して、避難訓練を実施した。

避難は短時間に完了することができた。

# 不審者対応の避難訓練実施



S先生扮する不審者が三年二組の教室に侵入。

藤枝先生は、すかさず生徒たちを教室前のドアから外へ逃がす。

生徒が逃げた後に、不審者が外に出ないよう距離を取りつつ説得を試みた。異変を感じた隣のクラス教師たちが、二組の教室に駆けつけ複数で対応に当たる。その時間を使って、生徒たちの避難が完了した。

避難先の体育館では、訓練を総括して全体会を行った。その際、三上先生が、生徒たちに簡単な護身術を教えた。実際に生徒が試してみると、見事に先生の手をふりほどくことができた。

できれば使いたくない知識だが、今回学んだ「不審者の手を振りほどく方法」は、備えとしては有効な知識となり得る。ご家庭でも、ぜひお子様と一緒に試していただければ幸いである。

# 大沼先生熱く語る！

「先輩たちのよい伝統を引継ぎ、その上で新しい伝統を築く。それを築くのは皆さんなんだよ。」

大沼由佳先生が、卓球部全員に語りかける。

「新しい伝統は、どうすればできるの。まずは応援の仕方だと私は思う。卓球は一人で戦うけれど、応援がまとまっていれば心が一つになります。一人で戦うけれど一人ではない。皆が一つだと感じられる応援ができたとき、新しい伝統が生まれるんだよ。」

最初は笑い声すら漏れていた生徒たちの聴く態度ではあったが、

大沼先生の話が進むほどに、生徒たちが変化してきた。耳と目と心が大沼先生の心と向かい合っている。

「では、今から先生と北中さんと模擬試合を行います。2年生たちは、北中さんの応援を、1年生たちは先生の応援をしてみてください。」

大沼先生は、まず言ってきかせ、次に左写真のように、生徒たちが実際に「やってみる」機会を設定した。



「ナイス！」  
「調子いいよー！」  
「大丈夫、挽回できるよー！」  
「しっかり見ていこうー！」

などなど、生徒たちは二人のプレーに反応して、温かで、プレーヤーを支えるための、息の合った応援ができていた。

試合の結果は、北中さんの勝利。

試合後、大沼先生が生徒たちに感想をきいた。

「声を出すことでチームが一つになっている。」  
「応援する自分自身も、声を出すと気持ち良かった。」  
などの意見が聞かれた。

いよいよ新人戦が明日から始まる。どの部活も、選手はもちろん応援する生徒も含め、一丸となって戦って欲しい。

燃えろ、常中魂